

令和6年度東京都立立川学園学校経営計画報告

都立立川学園
校長 市川 裕二

I 令和6年度の取組目標に関する自己評価

1 幼児・児童・生徒の人権を尊重した教育の充実

呼び捨て等の禁止、さん付けでの呼名の徹底が図れ、保護者からの評価を高かった。いじめの早期発見、早期対応の徹底を図った。聴覚障害教育部門においては、スクールカウンセラー、SSWの計画的な活用による児童生徒のメンタルケアを推進した。

2 幼児・児童・生徒が安全に学校生活を送ることができる環境の確保

危機管理計画の確認・修正（火災・地震・災害・不審者など）と計画の見直しと、基づく訓練の実施し、トランシーバーや学校携帯の円滑な活用が図れた。保護者連絡システム(Classi 東京都版)の活用を推進し、保護者との円滑な連絡ができた。行方不明・アレルギー・事故・医療的ケアの関する対応についての計画に基づく訓練を実施した。初期食・中期食・後期職の形態食を提供し、保護者からの評価も高かった。スクールバス保護者会や事業所別保護者会、放課後デイサービス事業所連絡会を開催し、連携を深めた。

3 幼児・児童・生徒の一人一人の特性や課題に応じた学習の推進

P T、O T、教材アドバイザーの外部専門家からのアドバイスを活用し、個に応じた指導の充実を図った。次年度に向け、個別指導計画、学校支援シート、自立活動指導計画の書式を学校全体で統一した。次年度の活用に期待する。

4 学習指導要領の趣旨に基づく授業改善と幼児児童生徒の豊かな学習保障の充実

次年度に向け、学校全体の教育課程の見直しを行った。特段、令和7年度入学の聴覚障害教育部門高等部の教育課程は全く新しいものとした。それに向けて、学校説明会等を開催し、入学生を募集できた。一人一授業や年次研などの授業研究の実施による授業力の向上、両部門の知的障害の教育課程の授業を見合うことで両部門が知り合う研究授業を実施した。学校図書館を活用した読書活動の充実として、図書貸し出しシステムの活用など、読書活動の充実に向けた具体的な取組の推進した、立川市立図書館と連携し、電子図書を借りることができるようになった。

5 幼児・児童・生徒の自立と社会参加を促進するキャリア教育の推進

キャリアパスポートの作成を通して小学部から高等部までを連なるキャリア教育を構築した。

重点目標と方策(数値目標)の結果

| 項目 | 内容 | 数値目標 | 結果 |
|---|-----------------------------|-------------------------------|-------------------------------|
| 1 幼児・児童・生徒 の人権を尊重した教育 の充実 | 人権教育に関する研修会の実施 | 年間3回開催 | 3回実施 |
| | 学校評価アンケート「楽しい学校」の 高評価 | 保護者：90%以上 | タ：77% ヤ：91% |
| | | 児童生徒：90%以上 | タ（小）67% タ（中）58% タ（高）73% |
| 2 幼児・児童・生徒 が安全に学校生活を送 ることができる環境の 確保 | アレルギー対応研修会 | 年1回 | 1回実施 |
| | 医療的ケア対応研修会 | 年2回 | 2回実施 |
| | プログラム対応研修会 | 年1回 | 1回実施 |
| | 緊急対応訓練 | 年1回 | 1回実施 |
| | 心肺蘇生法訓練 | 年1回 | 1回実施 |
| | 学校評価アンケート「安全な学校」の 高評価 | 保護者：90%以上 | タ：47% ヤ：79% |
| 児童生徒：90%以上 | | タ（小）17% タ（中）81% タ（高）56% | |
| 3 幼児・児童・生徒 の一人一人の特性や課 題に応じた学習の推進 | 外部専門家からの授業アドバイス | 年間30回以上 | 88回 |
| | 学校評価アンケート「個に応じた指 導」の高評価 | 保護者：90%以上（個 別指導計画の適切さ） | タ：60% ヤ：87% |
| | | 保護者：90%以上（個 別指導計画の説明） | タ：59% ヤ：89% |
| 4 学習指導要領の趣 旨に基づく授業改善と 幼児児童生徒の豊かな 学習保障の充実 | 人コマ授業の実施 | 100% | 100% |
| | 学校評価アンケート「わかりやすい授 業」の高評価 | 保護者：90%以上 | アンケート項目か ら削除 |
| | | 児童生徒：90%以上 | タ（小）17% タ（中）71% タ（高）66% |
| 5 幼児・児童・生徒 の自立と社会参加を促 進するキャリア教育の 推進 | 全ての児童生徒に「キャリアパスポー ト」の作成 | 100% | 100% |
| | 学校評価アンケート「適切な進路指導の 高評価」 | 保護者：70%以上 | タ：43% ヤ：43% |
| | | 児童生徒：90%以上 | タ（小）55% タ（中）71% タ（高）71% |

| | | | |
|---|------------------------|-------------------------------|------|
| | 各種検定合格者数（のべ） | 90人以上 | 90以上 |
| ○地域とのつながりを深め、地域の特別支援教育のセンター的機能の発揮と強化（学校ホームページの充実） | 学校ホームページの更新 | 8f回以上 | 95回 |
| | 副籍直接交流の実施者数（人） | 40人以上 | 39人 |
| | 学校公開の参加者数 | 150人以上 | 183人 |
| ○教職員の働き方改革の推進とサービス事故の根絶7 健康で豊かな心と体を育てる教育の推進 | 教員の超過勤務 | 一か月の超過勤務が80時間を超えた月がある教員10人以内。 | 8人 |
| | 理内における幼児・児童・生徒の事故件数（件） | 0 | 11件 |
| | サービス事故 | 0 | 0件 |

※タ：タッチ部門（聴覚障害教育部門） ヤ：やえ部門（知的障害教育部門）

※保護者・児童生徒アンケートの評価が、目標に達していない原因の一つに、アンケートの回答に「分からない」を入れたため、「分からない」と答えた保護者・児童生徒が多いためと考えられる。

II 今後の課題・方向

1 幼児・児童・生徒の人権を尊重した教育の充実

①体罰の撲滅、人格を否定する乱暴な言動、追い込む指導等の不適切な指導の徹底的な排除（呼び捨て等の禁止、さん付けでの呼名の徹底）

②いじめの早期発見、早期対応の徹底（いじめ防止基本計画に基づく指導の徹底）

③幼児・児童・生徒の自己肯定感を育む教育の推進

④聴覚障害教育部門：スクールカウンセラー、SSWの計画的な活用による児童生徒のメンタルケアの推進

2 幼児・児童・生徒が安全に学校生活を送ることができる環境の確保

①危機管理計画の確認・修正（火災・地震・災害・不審者・行方不明・アレルギー・事故・医療的ケアの関する対応など）と計画に基づく訓練の実施

②学校携帯や保護者連絡システム(Classi 東京都版)を活用した、学校と保護者との確実な連絡の実施

③安全な医療的ケア実施に向けた校内体制の構築

④安全な給食の提供できる体制（食堂の使用、配膳、アレルギー対応・形態食）の充実

⑤スクールバス増車に関わる安全な運行と緊急対応計画の確認と修正・スクールバス保護者会や事業所別保護者会、放課後デイサービス事業所連絡会を通じた連携の充実

3 幼児・児童・生徒の一人一人の特性や課題に応じた学習の推進

①外部専門家からのアドバイスを活用した個に応じた指導の充実（OT PT 臨床心理士などの活用の推進）

②学習指導要録に基づく3観点の評価を含む個別指導計画・通知表の改善・充実と保護者への学習の進捗状況の説明等の充実（学校全体で統一感のある様式への改善・記載方法の充実）

③手話を含む多様なコミュニケーション手段を活用したコミュニケーションマインドの醸成

④障害特性を踏まえた指導方法の工夫の推進（聴覚障害教育部門：デジタル集団補聴システムの活用、知的障害教育部門：構造化の活用、視覚支援の活用の充実）

⑤自立活動指導計画の作成と指導の充実（一人一人の障害の特性や課題に応じた学習の推進）

4 学習指導要領の趣旨に基づく授業改善と幼児児童生徒の豊かな学習保障の充実

①教科学習の充実（聴覚障害教育部門における小学部と中学部・高等部の教科学習を通して連携の強化）※全校研究テーマ

②知的障害の教育課程における教科学習の充実 ※全校研究テーマ（東京都研究指定）

③ICTを活用した授業の充実 ※全校研究テーマ

④学校図書館を活用した読書活動の充実（図書貸し出しシステムの活用・東京都多摩図書館との連携・立川市立図書館（デジタル本の貸し出し）

5 幼児・児童・生徒の自立と社会参加を促進するキャリア教育の推進

①幼児・児童・生徒が希望する進路の実現に向けた取り組みの推進

②知識・技能の向上と定着及び各種検定の実施

③進路に関わる体験等の実施

④内部進学に向けた学部間の連携の充実

⑤キャリアパスポートの作成を通して小学部から高等部までを連なるキャリア教育の構築（実施の積み上げ）

その他

○健康で豊かな心と体を育てる教育の推進

・部活動促進・充実等、運動、スポーツに親しむ幼児・児童・生徒の育成・文化芸術活動の充実（東京都アートプロジェクトや全国特別支援学校文化祭等への応募の充実）

○地域とのつながりを深め、地域の特別支援教育のセンター的機能の発揮と強化（学校ホームページの充実）

・小・中・高等学校との交流及び協同学習の充実・副籍制度を活用した居住地校との交流及び協同学習の充実